

目次

新年明けましておめでとうございます	1
理事会報告	2
海外ニュース	3
第103回 72会ゴルフコンペ	4
新・パソコン外論考(其21)	5
出版文化史遺産(63) 洋書の歴史雑記帳(XVIII)	6
見かけと実際	7

新年明けまして おめでとう ございます



理事長 鈴木 信夫

今年も今日の天候のように冷たい景気のままのスタートになったようです。昨年一年を振り返り、今年の予測を試みて新年のご挨拶といたしたいと思います。

新しい役員体制のもとで2年を経過し、昨年の総会以降第2期目に入りました。役員の分担も一部入れ替わり、理事会には皆川、中村両氏に加わっていただいで新しい構成になりました。前期から引き継いだテーマが幾つかありますが、その一つは「消費税問題」です。消費税5%を価格に入れなくて済む非課税業者と入れなければならない私ども課税業者との間の不公平な競争状況を改善しようと言うもので、メンバー外からも呼び掛けがありました。昨年は幾つかの上部構造への働きかけを開始しましたが、現在のところ具体的な進展はございません。引き続き本年も取り組んで参ります。また、「データベースの使用に関する源泉徴収」の問題が再浮上してきました。国の税収不足が引き金になったかとも見えますが、マーケット規模は小さいながらも急成長しているからでしょう。これも今年のテーマになろうかと思ひます。皆様のところでそうした種類の問題がでました時には事務局へお知らせ

ください。まずは情報網を整備してから動くことになると思います。さらに、複写権・著作権問題があります。昨年複写権許諾に関わる新しい組織が出来、大きな変化がありましたが、そうした変化を前提としてどういう取組をするかがテーマになります。協会ホームページに関しては、サイトへのアクセスが月に1000件を越えるようになり、着実に成果が上がっています。昨年の総会では、サイトたち上げに伴ってダイレクトリーは紙にする必要なしと申し上げましたが、多くの皆様のご要望により印刷体での刊行も続けることにしました。ただし、製作コストの圧縮と広告収入の拡大により赤字を出さないことが継続の条件ではありません。広報関係では、協会パンフレットの内容を一新しました。フランクフルト・ブックフェアなどの機会に、協会を宣伝し知名度を上げるために活用しております。なお、細かいことですが家賃節減のため事務所の移転を計画しております。皆様の会費をお預かりしている協会としては、これまで進めてきたこと、現在進めていること、今年の予定などを申し上げました。それ以外に新しい課題が出てくるかと思いますが、皆様

方の積極的なご意見やご指導を頂戴しながら対処して参りたいと存じますので、よろしくお願いいたします。

さて、昨年から今年にかけての最大の問題は円が対ドル130円をさらに下回る状況が顕著に表れてきたことではないでしょうか。世の中の全般的な不況状態の中で、価格を上げることは殆ど不可能だが為替の実態からみれば実質的には上げざるを得ない、この業界が持つある種の二重苦のようなものが非常に鮮明になる年と考えざるを得ません。ドル高と言うより円安の局面ですし、ユーロが明確に動きだして前進の大きなメルクマールが出来た時期に当たり、円と海外通貨の関係は円に些か心許ない事態になるのではないかと危惧しております。そうしますと、価格転嫁ができない中でどうするかが非常に現実的な問題として出て参ります。協会の存在意義という観点から今日の集いを拝見しておりますと、皆様がたいへん親しくお話をなさっています。200名に近い方々どなたもが親しく話し合える会合はそう多くは有りません。それ程に当協会の皆様方のお仕事とその周辺の環境が親しく出来上がっている状況を目の前にしますと、今申し上げた二重苦を克服しようとする時に、その親しさが一つの大きな資源ではないかと思えます。孤立した資源ではなく、共有出来る資源という路線が幾つかのところで試されてよい時期ではないか、他の業界では既に進んでいるように思いますので、皆様方の個々の計画の中でそうした判断も入れて行くと、協会そのものも一層元気になると思えます。

また、オンライン書店が日本市場に入って数年経ちますが、この一年の間我々は色々な経験を重ねたと思

います。善し悪しは別にして、競争の形のようなもの、例えば分野或いは物流の速度で整理すればどうなるか、日本の出版界というマーケットの中での他の商品群との関係で考えるとどうなるか、幾つか図式があります。そうした考える手掛かりを整理しますと、一年前には不透明であった部分の透明度がかなり増したのではないのでしょうか。そのこととビジネスの収益が現実はどう動いたかについては、多分皆様方の中に自信、或いは不確定ではない材料が出来たのではないかと思います。そこから今年のテーマが生まれるでしょう。私の感触では、書店マーケットの中での「アマゾン」の意味は大きかったと正直思います。ただ、日本の現在の文教市場における予算の配分では、これまで我々が築き上げてきたマーケットとその手法が一挙に覆る状況は実は起きていません。それは何故か、が今年のテーマではないか、サービス体系或いはその質を如何に上げるか、でしょうか。現実には円安の中で国の予算の使い方はずいぶん厳しくなり、競争もさらに激しくなると思いますが、その中で私たちには新しい工夫、新しい手法を生み出す努力をしていくことが当然求められると言えます。

小泉構造改革が進められる過程では、ある種の時間の余裕と、「痛み」を被った人々が吐き出す資源を利用する人々、生き残る人々という構図の中で問題が動くことになります。日本洋書協会は是非生き残る側でやっていきたい、皆様方の色々なご指導を頂戴してそのようにな道を歩みたいと思います。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

(2002年新年賀詞交換会 開会ご挨拶)

理事会報告

12月18日(火)

1. 事務所移転に関する事務局長の報告を了承した。
2. 台北国際書展(2002年2月19日～24日)・日本館催事運営にあたり同実行委員会より事務局長の派遣要請があったことが事務局長より報告された。

※19日に再度要請があり、持ち回り理事会によって派遣に協力することとした。

お知らせ

事務所を移転しました

会員名：オックスフォード大学出版局株式会社

新住所：〒105-8529

東京都港区虎ノ門4-1-40

江戸見坂森ビル6階

Tel：03-3459-6481/6484/6489(営業部)

Fax：03-3459-0390/8661(営業部)

0120-300-974(〃)

業務開始日：2002年1月15日



海外ニュース

◆EU、オンライン書籍販売への付加価値税を是認

EU 欧州連合の財務関連首脳会議は、インターネットを通して販売される物品およびサービスに付加価値税(VAT)を課することを是認した。

このシステムは、EU 内の輸出会社が EU 内の消費者に商品を販売する際の販売税を免除するのに対し、アメリカおよび EU 以外の国のウェブサイトが EU の消費者に販売する場合には不利な立場に置かれるというもの。つまり、EU 以外の書籍およびデジタル書籍販売業者は、EU 各国それぞれの VAT に登録し、消費者が所属する国の税率に準じて付加価値税を付して販売し、それぞれの国の歳入管理局に納税せねばならない。EU によると、EU 内で販売されるオンライン・ビジネスの約 90% は業者間の取引で、この課税は免れるとのこと。

この決定は EU 以外の e ビジネス業者の逆鱗にふれるもので、Amazon.com の Ms. Margaret Dawson, International PR Director は「書籍販売の重要な点は、公平で实际的、かつ消費者の側に立った税が課せられることであって、この課税システムは顧客とサービス・プロバイダー双方にとって不当な負担となる」と述べた。欧州出版社連合(Federation of European Publishers)は、EU 委員会に決議文を提出して、すべての書籍に均一の VAT を課すよう要請した。

theBookseller.com, DEC 18, 2001

◆夢見る出版人 Wm. Jovanovich 氏の死

Harcourt Brace Jovanovich の重役を長く勤めた William Jovanovich 氏が、12 月 4 日サンディエゴの自宅で亡くなった。享年 81 歳であった。氏は、海軍軍人として第二次大戦に従軍した後、Doubleday 社から出版人としての人生を歩みだした。数社での短い経験

を経て、1947 年 Harcourt Brace に入社、大学担当の営業、後に教科書編集者として勤務した。1954 年 34 歳で社長に抜擢されてから、同社の発展につとめ、年間売上 800 万ドルほどの規模から世界有数の大規模出版社にまで育て上げた。1990 年には 10 億ドル以上の年間売上高を記録した。

彼は、COPE プログラムのようなボランティア活動をサポートし、マイノリティの出版ビジネスへの雇用も早い時期から勧めた擁護者でもあった。また、夢想家でもあった Jovanovich 氏は、出版事業でその奇妙で成功のおぼつかない夢を実現しようとした。百万ドル単位の資金を水族館テーマパークにつぎ込み、マンハッタンで事業を行う上でのコスト高を嫌った彼は、1980 年代なかばに HBJ のオフィスをニューヨークからサンディエゴおよびフロリダに移した。そして出版物を返品不可という条件で販売する案を二度も実行しようとして失敗した。

氏は、Robert Maxwell 氏による買収攻勢を防御しきった後、1990 年にリタイアした。この闘いに勝ったものの、HBJ には大きな負債が残った。同社は 1991 年に General Cinema に売却された。

PW News Line, DEC 6, 2001

◆Thomson Learning と Gale の合併

Thomson は教育専門書出版の Thomson Learning と、オンラインおよび冊子体によるレファレンス出版の Gale Group を統合する。両社は、英国における経理および人事業務部門を統合する予定だが、ひとつのオフィスにまとめて業務を行うか否かについては未定である。Reading に拠点を置く Gale Group と Thomson EMEA は、ともに英国で約 70 名のスタッフを抱えている。Thomson Learning が今年 9 月末までの九ヶ月間に全世界で挙げた収益は 13.7% アップの 2 億 4,100 万ドル (1 億 7,200 万ポンド) で、販売金額は 29.2% アップの 12 億ドル (8 億 5,700 万ポンド) であった。この数字には、昨年 Reed から買収した Harcourt の高等教育および学術出版部門からの収益も含まれている。

theBookseller.com, DEC 19, 2001

第103回 72会ゴルフコンペ

高根カントリークラブ 2001年12月1日(土)

2001年最後の納会ゴルフ。前日より4～6度位、気温が下がるとの此の日の予報も、快晴、無風の好天気。セーターも要らない程の暖かさの中で、福本さん(マテマティカ)、久住さん(ゲーテ書房)の紅2点、そして初参加の鶴和也さん(東亜ブック)を交えて、4組16名でのスタートとなりました。

優勝は、「この1ヶ月ばかり肩痛で仕事も儘ならず、クラブも握れなかった」、それでかえって力が抜けたのか、「ショットはまずまず、パットは難しかった、ラッキーでした」とコメントの西山幸児くん(西山洋書)。その調子で仕事も励んで貰いたい。2位には南コース9番(311ヤード)では、危うく前の組に打ち込みそうになるほどの豪快なショットで、見事ワンオン、バーディーの鶴竜次さん(東亜ブック)が入賞。キャディーさんの話でも「このホールでワンオンする人はなかなかいない」とか、それほど素晴らしいゴルフで実力を発揮され立派でした。3位には「ゴルフは悪くなかった、優勝をねらっていた」とコメントの松浦さん(丸善)、実力どおり堅実なゴルフを展開され見事でした。

南5番ホールだったと思いますが、レディスティからのハンディを巧く利用され、福本麗子さん(マテマティカ)、見事なドライバーショットでドラゴン賞、そして、此の日は調子がよく飛び賞10位を獲得され

ました。特筆すべきは、前回に続き今回も川原さん(UPS)、ドラコン2本ずつを獲得「飛ばし屋」ぶりを発揮されました。

若い人達もお年を召した方も一緒にゴルフを楽しむ事ができた喜びを感じながらの帰途、車の中のラジオから、皇太子妃雅子さまの女児出産のニュースが流れていました。和田さん(大洋交易)、鶴さん(東亜ブック)本当にご苦労様でした。そして有り難うございました。

成績表

		G	H	NET
優勝	西山幸児(西山洋書)	90	13	77
2位	鶴 竜次(東亜ブック)	93	13	80
3位	松浦拓己(丸善)	92	11	81
4位	戎井忍治(丸善)	97	14	83
5位	白井勝弘(東亜ブック)	104	20	84
ベストグロス	西山幸児(西山洋書)	90		
ドラコン	川原孝人(UPS)			川原孝人(UPS)
	福本麗子(マテマティカ)			西山幸児(西山洋書)
ニアピン	西山久吉(西山洋書)			鶴三郎(東亜ブック)
	斎田利幸(三善)			鶴竜次(東亜ブック)

(西山洋書 西山記)

協会事務所を移転しました

本年1月末日を以て千代田会館5階20号室より3階10号室へ移転しました。1988年(昭和63年)4月に旧藍沢証券ビルより現在地に移転、以来13年10ヶ月の間5階20号室を協会の運営と活動の拠点としてご活用いただいて来ました。新事務所となります3階10号室は、やや手狭にはなりましたがよりコンパクトな、またより効率的な新拠点に仕上げていきたいと考えております。お近くにお越しの際は是非お立ち寄り下さい。なお、同ビル内の移動ですので電話・FAX番号に変更はありませんが、郵便等の宛先は以下のように表示いただければ幸いです。

〒103-0027 東京都中央区日本橋1-21-4
千代田会館3階10号

事務局

◆Don't be that way./そんなの、なしだよ！

子曰、辞達而已矣、

The Master said, "It is enough that the language one uses gets the point across."

(論語／衛霊公・Confucius: The Analects / Book XV)

【超拙意訳：先生は、言われた。「言葉は、意志が伝わればいいのだよ」】

【外註：徂徠などは、この「辞」という意味は、一般的な言葉ではなく、外交上の辞とします。これは、外国へ派遣された使者が、自国の君主の意志を伝える際の注意の意と解釈しています】

★PC(Personal Computer)まわりについて

先般購入しました、OSにWinXPを搭載したマシンは、相変わらず、freezeを時々します。それも、本当に間の悪いときに…。ワープロを使用中、「沈黙思考」、急に文章を思いつきキートップを叩いた瞬間と、ワープロソフト側が、autosave(筆者の場合は、10秒間キーボードまたはマウスに触れない時は、自動保存、いわゆるバックアップファイルにセーブの設定)に入ったのとバッティングしてfreezeとか…。

また、いくつかの「窓」を開いているときに、間違えてキーを押すと(何キーを押したかさだかでない)見事にfreeze。したがって、今は、キーボードで筆者にとって不必要なキー(key-top)を4つほど取り外しております。半角／全角、capslock、tab、カタカナ、の4つのキーです。

また、最近のWinの特徴は、OSそのもの(筆者の場合はXP)、アプリケーション・ソフトも、ほとんどがマニュアルが添付されていません。online helpとか称して、helpキーを押せばマニュアル代わりにといいますが、どっこい、freezeしているので、helpキーが利くはずもないのです。「分からない」と悪評の数百頁にもおよぶマニュアルなんて、と思っていましたが、online helpなんかよりまだ「まし」とつくづく思いながら、resetを繰り返しております。本当に詳細情報(detailed advices)がなくて…。と嘆いていたら、友人曰く。だからメーカー側は、「公式解説書(?) Official Handbook」を買ってください、と言っているんだよ、と。思わず溜息が、でました。

★Internetについて

博物館の取材も相変わらず継続中です。今回は、4度目になりますが、再々々訪の新聞発祥の地、横浜にあります「日本新聞博物館」(The Japan Newspaper Museum=<http://www.pressnet.or.jp>)にまいりました。同博物館の入口にあります Alte Liebe(英語で言う Old Love)というレストランでの「Tea」も目的の一つですが。企画展「明治のメディア師たち」という錦絵新聞の世界を見にいったわけです(本原稿執筆時点では、「2001年号外展」となっていますが)。

★Internet関係のパソコン英語*****(14)

最近、新聞の折込広告にCATV、ケーブルテレビ会社のものが増えてきています。曰、「8 Mbps・2500円」「メールアドレス5つ」「HPは、10MB」「電話代0円」とか。「電話代0円」というのは魅力ですが、いまいち触手が動きません。この値下げ競争の「果て」を見てからでも遅くないといい聞かせております。

でも、CATVのかつて最大512kbpsが、8 Mbpsになっているのだということは、「競争」はすごい。これでDSLの8 Mbpsと肩を並べたわけだと、あとは「価格競争」がヒートアップするのを待つだけ、というわけです。

2001年11月末で、DSL(Digital Subscriber Line)への加入者が120万回線突破(2000年12月時点では1万回線弱だったことを思えば、恐い)で、CATV加入者を越えたとか(朝日新聞2002年1月9日付)。まあ、DSLが首位になり、今後もこの勢いでという、この報道後から、例の折込広告が入り出したのにびっくりしています。早くこい！PLC(Power Line Communication=電灯線通信Max. 24Mbps)とひとりエールを送っております。

で、今回から少しe-mailの話とっております。最近では、mailを開いただけで「computer virus」に感染してしまったという話をよく聞きます。

現在、providerの【mail server】からmail受信する際の規約【POP】(Post Office Protocol=郵便局通信規約)というものを使用して、自分のパソコンに取り込んでいます。で、既述しましたsoem(迷惑)メール、広告メール等を排除、必要なメールを受取れる【IMAP】(Internet Message Access Protocol=インターネットメッセージ利用規約)が、使用できるということです…。これを採用しているProviderが少ないのです。このdogyear時代に。(本項続く)乞御期待。

洋書の歴史雑記帳〔XVIII〕津山藩と洋学の系譜(10) 鈴木陽二

◆岡山県の洋学風土記(2)

石井宗謙は、1796(寛政8年)美作勝山町の近く真庭郡旦土村に生まれた。父の医業を継ぐべく医者を目指し、シーボルトが長崎の郊外に開設した鳴滝塾に入門し、西洋医学を学んだ。産科医となった彼は、藩医に召し出されたが、後、辞任して岡山で開業した。

ところで、シーボルトの娘イネは長ずるに及んで蘭方医になる決意を固め、シーボルトの弟子で信頼の厚かった二宮敬作に医学を学ぶことになった。敬作は、禁制品の国外持ちだしが発覚したシーボルト事件に連座して入獄し、後、故郷の宇和島藩の藩医として召し出され、かたわら卯之町で町医者を営んでいた。

卯之町は、宇和島から松山に向かって特急で20分ほどの小さな町だが、今でも古い町並みを残し、通りに塵ひとつない清潔で珠玉のような町である。蚕社の獄で捕らえられ脱獄した高野長英が一時かくまわれたのも卯之町で、彼が隠れていた家はイネが住んでいた家でもあり、今もそのまま残されている。イネは敬作のもとで5年間医学を修練した後、産科学を本格的に学ぶため、岡山で開業していた石井宗謙に師事し研鑽に励んだ。師から多くの産科書の書写を命じられたが、その中にはサロモン(Gottlieb Salomon)の産科書“Handleiding tot de Verloskunde”を宗謙が部分訳したのも含まれていた。サロモンはライデンの医師で、この本は当時蘭方医の間で大変有名なものだったという(『洋学二百年記念展』目録)。

イネが産科学にいそしんでいたさなか、長崎から母親のタキが訪れてきた。宗謙も師の妻だったタキを歓迎し、長崎に帰るときにはイネとともに下津井まで送って行った。下津井は、家康の命で池田長政が広大な城を築いた城下町でもあったが、廃城後は備前国の最良の港として瀬戸内往還の要衝にあり、北前船の風待ちなどで賑わった。回船問屋や豪商が軒を連ねていた港町で、今でもその古き時代の繁栄の面影を色濃く残している。特に岡山から城下を貫流する旭川河畔で船便を得、下津井で乗り継いで瀬戸内に船出するという利便性があり、金比羅詣でなどに盛んに利用された。現在でも、国の「重要伝統的建造物群保存地区」に指定されている笠島集落のあるかつての水軍の島「塩飽本島」を中継して、下津井と丸亀を結ぶ航路が運行さ

れている。脱線ばかりだが、この笠島は、全国に赴いて神社仏閣を造った塩飽大工の手になる保存の良い古い家並みを残し、穏やかな瀬戸内に面して静謐に包まれた集落である。繊細な千本格子やなまこ壁、矢来と呼ぶ石組みなど、江戸時代回船問屋で富を築いた豪商たちの古雅ともいえる家々が続く。塩飽水軍は本邦第一といわれた類い稀なる操船術を有し、戦国時代は信長、秀吉、家康など天下人にくみし、幕末には咸臨丸渡米のうちに幕府の命で多数の水夫が乗船している。

さて、タキを送った帰りの船中で、宗謙はかねて恋情を寄せていたイネに、腕ずくで思いを遂げた。このとき懐妊したイネは、生まれた娘に望まなかった子という意味でタダ(後年の高子)と名づけた。この出来事で宗謙をいとうようになり、勢い勉学の意欲も失せてしまったイネは、間もなく長崎に帰った。長崎では心の傷の癒えない沈鬱な生活を送っていたが、敬作の励ましで再び卯之町に戻って医業の研鑽に励み、宇和島では村田蔵六(大村益次郎)に蘭語の指導も受けた。後、福沢諭吉などの骨折りで、明治天皇の権典侍葉室光子の懐妊に伴って産科掛医師を務めるなど、産科医として大成し、医学の発展に貢献した。

石井宗謙の特筆すべき医学上の業績は、人痘を試み、種痘の普及を図ったことだった。人痘は牛痘に比べて危険で、わが国で牛痘が成功したのは、1849(嘉永2年)オランダ船が牛痘瘡をもたらして接種したのが初めてで、宗謙の試みはその8年も前の壮挙だった。宗謙の医者としての名声は広く知られるようになり、後年函館奉行御用や、幕府の著書調所にも出仕した。

宗謙の子謙道(信義)は、箕作阮甫、松木弘庵(明治期の外交官寺島宗則)、長崎海軍伝習所医官ポンペ(オランダ海軍軍医Pompe van Meedervoort)、緒方洪庵の適塾などで蘭学や西洋医学を学んだ。桂川甫周の編纂した『和蘭字彙』の校訂を助けたこともあり、一時勝山藩に仕え、のち大阪医学校の校長兼病院長を務めた。明治8年には坪井為春とタナー(T.H. Tanner)の“Practice of Medicine”を共訳し、『丹氏医療大成』を刊行するなど、幕末・明治期の医学界の重鎮だった。〔参照文献：呉秀三『シーボルト先生 その生涯と功業』／吉村昭『ふぉん・しいほるとの娘』／中山沃『岡山の医学』(元丸善・本の図書館長)

日本の文化の中で生活していて、たまに海外に行ってみると、日本と同じ状況でも行動が異なることをしばしば目にする。私が訪れたアメリカのキャンパスでは、教授がオレンジジュースを飲みながら講義をしたり、教卓に腰を掛けたりするのが平気だった。日本的に言えば、礼儀作法に欠けるということになるだろうが、後で分かったのは、大学のカリキュラムでは昼休みにも授業が入っていて、その授業を担当している教授は食事をする暇がないので、授業中食事をするのもやむを得ないのではないかと思った。

相手に迷惑がかからなければ許されるという幅もあった社会では、講義中の食事にも机に腰掛けることも許容する。一方、その反面、音には極めて敏感である。スープを飲むのに音を立てないように気配りをしたり、食事の際に、小声で囁くのを正しいマナーと考え、甲高い大きな声を避けようとすることもある。

同じ行動でも社会によって受け取り方が異なるということについて、文字に対する反応も異なっているという点を取り上げてみたい。たまたま、武蔵野の町を歩いているとき、TOYOとローマ字で書いているクリーニング店の看板が目に入った。私たちがこの看板を見ると、「東洋」という漢字を思い起こす。それをさらに仮名書きすると、「トウヨウ」になり、その発音は「トーヨー」とのぼして発音する。東京を「とうきょう」と振り仮名をつけても「トーキョー」と発音するのと似た現象である。しかし、英語のような強弱拍子の言語を話す人はTOYOを見ると、TOY-OHと捉えるらしい。出だしに力を入れて言うので、Yが前の音節に引き込まれるわけである。

こんなふうに考えると、フランクフルト空港には東京のことをTokioと表示していたことを思い出す。英語発音を調べる場合、OUP、CUP、Longmanの各出版社から出ている発音辞典を参照するわけであるが、いずれも[tóu.ki.òu]のように強弱強の3音節で表記している。

この違いを一つの固有名詞の発音差だけと捉えないで、英語という言語の特徴の表れと捉えてみるとどうなるであろうか。言葉は通じればよいという考えからすれば、「東京」の発音はパライエターがあってもよいことになるが、英語の教育に携わるものとしては、

極西で発展した英語と極東で発展した日本語と比較してみて、その差をどう捉え、どうすれば英語の特徴を捉えることができるかを考え、その成果を英語教育への応用に生かそうとする。

英語の特徴を捉えるには発音記号というものがあるが、ローマ字で表せる場合はできるだけローマ字を用い、表せない場合に限り特殊な発音記号を用いるので、規則的な音声表出にはとても役立つわけである。しかしながら、英語のアルファベット26文字を発音記号で表すことをしていないのは残念である。アルファベット26文字の第1文字はAであるが、もっともその特徴を表す表記は[éi]であろう。日本での算数の教室では「3角形 ABC」を「エービーシー」のように言っているのも、英語の実際の発音と異なっている。英語としてのAの発音は、[éi]のような記号を用いるのがよいのではなかろうか。つまり、英語の特徴は長母音の場合は前の方が強く後の方が弱い、いわゆる二重母音をよく用いる。それを上記のように記号化しておくとその特徴を習得しやすい。

一般に、発音記号は二の次とされ、綴り字をベースに発音が取上げられるが、綴り字の不規則さで悩まされた人が多いはずである。knife, know, nightなど日常語でも黙字(silent letter)があり、character, cheese, Chopinなどの頭字ch-はそれぞれ[k, tʃ, ʃ]の3通りに区別して発音をする。

頭字語(acronym)は日本語話者と英語話者では異なる反応を示す。NHKやBBCは日本語話者はどの文字も同じ強さで、発音するが、英語話者は第1文字と第3文字を強く、特に最後の文字を力を入れて発音するので、中間の文字は極めて弱く発音する。4文字の続きでも、英語話者ではその傾向がある。カリフォルニア大学ロサンゼルス校のUCLAの発音はUCLAのように始めと終わりが強く発音されるので、それを聞くと異国の発音だと感じるのは私だけではあるまい。さらに違いを感じさせるのは、LAを[el-éi]とつなげて言うことである。日本語話者の耳には「エウ・レイ」のように聞こえる。英語教育の改定は身近な日常生活に注目することから始まるような気がする。

(茨城キリスト教大学教授)

見かけと実際

島岡 丘

英訳版 「特命全権大使 米欧回覧実記」

The Iwakura Embassy, 1871-73

A True Account of the Ambassador Extraordinary & Plenipotentiary's
Journey of Observation Through the United States of America and Europe

Compiled by Kunitake Kume

Editor in Chief: Graham Healey (University of Sheffield)
Chushichi Tsuzuki (Professor Emeritus, Hitotsubashi University)

2002年1月刊行 全5巻 函入 セット価 ¥115,000 (税別)

2200頁 図版約200枚 182x257mm ISBN 4-901617-001

(Published by The Japan Documents / (株) 日本文献出版)

.....

Volume I: The United States of America

Volume II: Britain

Volume III: Continental Europe, 1 (France, Belgium, Holland,
Germany)

Volume IV: Continental Europe, 2 (Russia, Denmark, Sweden,
Italy, Austria)

Volume V: Continental Europe, 3 (Switzerland, Spain,
Portugal, France, Egypt, Red Sea, Arabian Sea,
Asia countries, Hong Kong and Shanghai)

「特命全権大使米欧回覧実記」は、明治政府太政官記録掛の刊行になる岩倉使節団の報告書である。この使節団は、全権大使岩倉具視、副使木戸孝充、大久保利通ら約五十名からなり、日本近代国家をいかに創出するかを米欧十二ヶ国のなかに探る国家プロジェクトであり、一行は一八七一年十二月横浜を出発、一年十ヶ月余を経て帰朝した。この報告書には、政治、経済、産業、軍事、教育、宗教、文化などあらゆる分野に関する見聞と洞察が、具体的な事象から国家原理など抽象的な諸問題に至るまで格調高い筆致で綴られている。

一九七七～八二年に至って岩波書店が文庫本（全五冊）としてこれを刊行するに及び、国内・国外から注目を集め、その研究も国内外で急速に進められてきた。しかしながら、これまで翻訳版がなかったため、学際的理解や研究の大きな壁となっていた。従って、この翻訳本の出版は重要かつ必要不可欠な企画である。

本英訳事業によって、日本の近代国家創出の過程は、いちだんと欧米の関心をよび、日本と諸外国との理解はいっそう深まるであろうし、さらに、後発近代国家としてのアジアの国々にも多大の影響を与えることは疑う余地がない。

＜日本総代理店＞ ユナイテッド・パブリッシャーズ・サービス社